

「朝、職員室での校長講話」

11年前の今日、6月18日は、三ヶ日青年の家で実施していた本校行事の野外教育活動2日目でした。当時、1年生の西野花菜さんを乗せたボートが転覆し、花菜さんは帰らぬ人となりました。わたしたち章南中は、ご両親からお預かりした大切な命を守ることができず、元気な姿でご両親にお返しすることができませんでした。

花菜さんは、難病をわずらっていたお母様を思い、通院する際には四つ葉のクローバーを探してきてお母様に渡し、カッターボートに乗る前日の野外活動のしおりに、将来は医者になりたいと記しました。このやさしい心をもった一人娘の花菜さんの命と夢を、カッターボート事故は奪ってしまいました。

ここで、西野花菜さんに、黙祷を捧げます。みなさん、ご起立ください。

～黙祷～

やめ、ご着席ください。

花菜さんのお父様である西野友章様は、昨年本校でわたしたち教職員研修の講師として、学校行事の危機管理について講話をしてくださいました。講話を始めるとき、友章様は「花菜が亡くなった日も、今日と同じような天気だった。これまで、いろいろな場所で講師をしてきたが、私は今日、ここに来てはじめて事故の話をする。自分でもよく立ち直れたなど思っている。」と声を詰まらせながら仰いました。しかし、昨年12月には、花菜さんのお母様であり、友章様の奥様である光美様が、闘病の末に永眠されてしまいました。友章様の胸中を想像すると言葉もありません。

今年で11回目となる豊橋・学校いのちの日は、わたしたち教職員が、決してこの事故のことを忘れない、風化させないために制定されました。当時のことに直接かかわった教職員は、本校にはもう一人もいません。よく知っている人がいれば風化しないのか。いるとかいないとかではなく、これを教訓にこのような事故を二度と起こさない判断や行動ができること。別の学校に異動したあとも、危機管理のリーダーを担う覚悟で働くこと。これが、友章様が訴え続けておられること、事故を風化させないことにつながるはずです。

ここに浜名湖のボート転覆事故を教訓とするための、事故を決して風化させないためのパネルがあります。日頃は校長室に掲示してありますが、以前、校内研修で配付させていただきました。中央の部分に、「職員誓いのことば」があります。その下には、「章南中の教職員はこうありたい」と私たちのもつべき覚悟を記した文書があります。本日、このパネルに記された一つ一つの言葉が決定するまでの経緯についても、新たな視点から見つめ直すこととなります。「章南中の教職員はこうありたい」の部分を読み上げさせていただきます。

「章南中の教職員はこうありたい」

○野外活動中の事故で、保護者からお預かりした大切な生徒の命を救うことができなかったという反省をもとにして。→○すべての教育活動において、生徒の命を最優先に考え、安全の確保を全職員が心を一つにして努めていく。

○不幸な事故を二度と起こさない。安全・安心な学校づくりをするためのリーダー校となるために。→○校外学習における安全マニュアルを作成し、順守するだけでなく、もしもの場合、自ら判断・行動する力を身に付ける。

○悲しい事故のことを決して忘れず、これから先も風化させることがないようにするために。→事故を通して得た教訓を、安全な学校づくりのために生かし、豊橋のみならず近隣の市町、ひいては全国に向けて発信する。

以上です。

わたしたちは、この文言を書き残した方の決意を考えたことがあっただろうか。ここまでの覚悟で日々勤

務しただろうか。目の前にいる生徒たち、さらにその家族のことまで考えた言葉や態度で接しているだろうか。今日、11回目の豊橋・学校いのちの日を、私を筆頭に自分自身を振り返るにきっかけにしてください。

このあと、生徒たちにも同様に話をします。そして、第1回目の豊橋・学校いのちの日にお越しいただいた大竹広治様と鈴木雅子様による「いのちを考える音楽会」、いのちを考える道徳の授業、午後からは、バルーンリリース、元豊橋市教育委員会学校教育課長 宮崎正道様による研修を実施します。

今日は、この事故を風化させないとはどうすることか、命の大切さとは何かを、新たな視点で生徒と共に考えて行く日にしたいと思います。先生方、どうぞよろしく願いいたします。